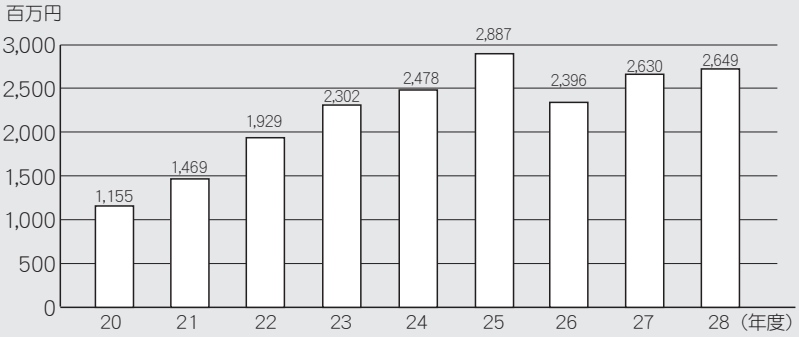
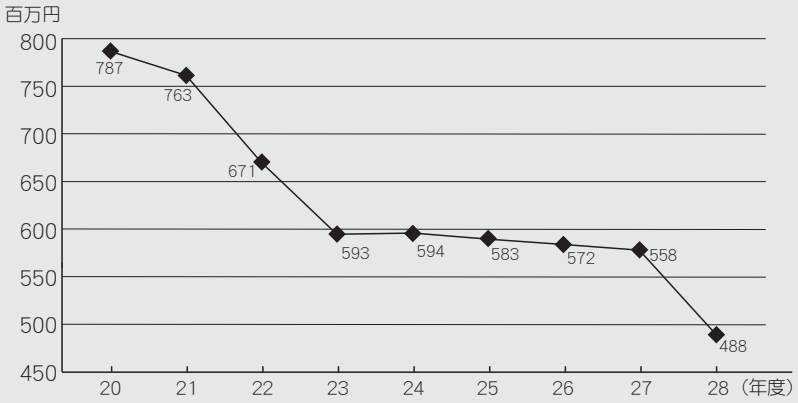
基金（貯金）の状況

基金は、いわゆる町の貯金のことです。保育園建設やまちづくり事業、住宅改修事業などを行うために取り崩しを行いました。しかし、定住対策や町の財政を計画的に運用するための財政調整基金の積み立てなどを行い、基金総額は微増となりました。



公債費の推移

借金の返済にあたる公債費は、一部の返済終了に伴い、減額となりました。しかし、今後は中学校建設、防災無線整備、保育園建設等の大規模事業の償還があるため、公債費が増加する見込みです。



各会計の決算

区分			歳入	歳出	歳入歳出差引額
普通会計	一般会計		69億5,199万円	66億5,106万円	3億93万円
	住宅新築資金等貸付事業特別会計		503万円	503万円	0万円
	公共用地先行取得事業特別会計		1万円	1万円	0万円
特別会計	国民健康保険事業特別会計		10億7,765万円	10億871万円	6,894万円
	簡易水道事業特別会計		719万円	719万円	0万円
	公共下水道事業特別会計		2億8,554万円	2億8,249万円	305万円
	農業集落排水事業特別会計		3億4,353万円	3億4,152万円	201万円
	介護保険事業特別会計		11億3,121万円	10億5,657万円	7,464万円
	介護保険サービス事業特別会計		5,606万円	5,606万円	0万円
	後期高齢者医療特別会計		8,457万円	8,449万円	8万円
企業会計	水道事業	収益的収入及び支出	8,469万円	6,799万円	1,670万円
		資本的収入及び支出	0万円	6,256万円	△6,256万円
	病院事業	収益的収入及び支出	18億2,603万円	18億1,785万円	818万円
		資本的収入及び支出	1億5,416万円	2億2,460万円	△7,044万円

※前ページの歳入歳出総額は、普通会計の決算額から企業会計などに繰出した県補助金などを除いて算出したものです。
※水道事業の資本的収入及び支出の差引額△6,256万円は損益勘定留保資金と建設改良積立金で補填しました。
※病院事業の資本的収入及び支出の差引額△7,044万円は当年度分損益勘定留保資金で補填しました。

平成28年度決算に基づく健全化判断比率・資金不足比率

①実質赤字比率

実質赤字比率とは、地方公共団体の一般会計等の福祉、教育、まちづくりの赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示すものです。

27年度に引き続き実質収支額が黒字であり、良好な状態を維持しています。

②連結実質赤字比率

連結実質赤字比率とは、全ての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示すものです。

27年度に引き続き連結実質赤字はありませんでしたので、良好な状態を維持しています。

③実質公債費比率

借入金（地方債）の返済額等の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示すものです。

28年度は11・1％で、27年度とほぼ同数値です。

早期健全化基準の25％を下回っているため、良好な状態ですが、大規模事業の地方債償還を控えているため、今後増加する見込みです。

④将来負担比率

一般会計等の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すものです。

28年度は113・7％で、27年度の88・7％と比較すると大きく増加しています。これは保育園建設に伴う借入が影響しています。

早期健全化基準の350％を下回っていますが、経営の健全化に向けて引き続き努力が必要です。

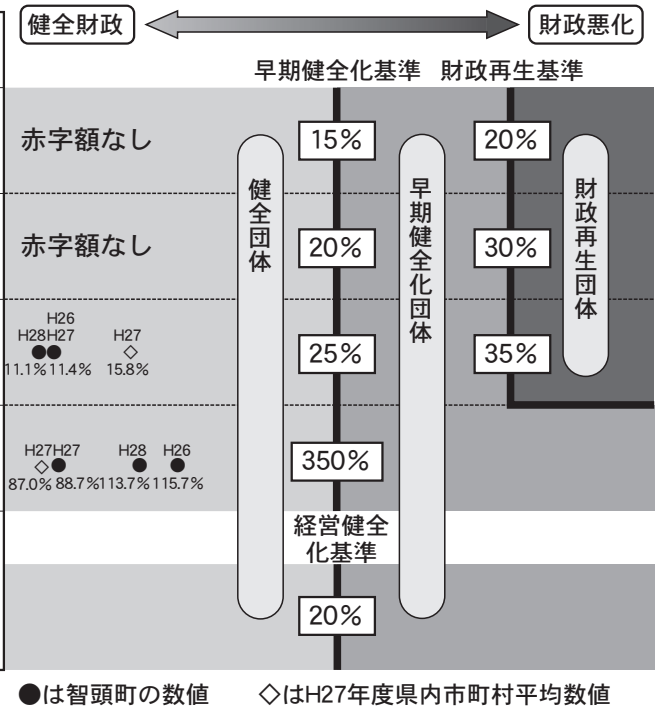
⑤資金不足比率

公営企業の資金不足を、事業の料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すものです。

27年度に引き続き各公営企業に資金不足は発生しておらず、良好な状態となっています。

健全化判断比率及び資金不足比率の推移

健全化判断比率及び資金不足比率	H26年度	H27年度	H28年度
①実質赤字比率	—	—	—
②連結実質赤字比率	—	—	—
③実質公債費比率	11.4%	11.4%	11.1%
④将来負担比率	115.7%	88.7%	113.7%
⑤資金不足比率（水道、病院、簡易水道、公共下水道、農業集落排水）	—	—	—



●は智頭町の数値　◇はH27年度県内市町村平均数値

問合せ先　役場総務課　☎75－4111